

北斎 かわらばん

第二十八号



「諸国瀧廻り 木曾路ノ奥阿弥陀ヶ瀧」(大判錦絵) 天保4(1833)年頃

諸国瀧廻り 木曾路ノ奥阿弥陀ヶ瀧

日本各地の瀧を描いた「諸国瀧廻り」シリーズの一図です。本シリーズは、全八図が知られています。この瀧は、現在の岐阜県郡上市白鳥町にある落差約六十mの阿弥陀ヶ瀧です。阿弥陀ヶ瀧は現在でも「日

本の瀧百選」の一つとして知られています。その名は、瀧の近くの洞窟で修行中の僧が護摩をたいたところ、阿弥陀如来の姿が浮かびあがったという伝説に由来します。

この絵の一番の特徴は、画面

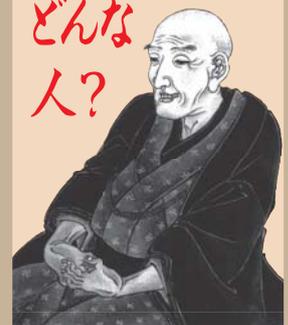
の上に丸く描かれた瀧口です。ここから勢よく落下する水の流れが迫力のある描写で描かれています。瀧口の部分には、ゆらめくような波紋が描かれています。瀧の流れは、正面から見て描いていますが、実際に正

面から眺めると、瀧口は本図のようには見えません。瀧が流れ落ちる直前の瀧口の部分のみ、真上から見て描いているようです。北斎の視点は自在に移り、北斎ならではの瀧の図を形づくっています。この丸く描かれた瀧口は、阿弥陀如来の後光をイメージして描かれたのではないかと、説もありません。

一方、瀧の側では莫塵を広げ、弁当箱を前に楽しそうに語らう二人の男性が描かれ、近くには扇子を片手に、火をおこして何やら温めている様子がかがえます。彼らがこれから楽しむのは、お茶でしょうか、お酒でしょうか。ピクニックをする三人の姿からは、瀧見物の楽しみも伝わってきます。

【発行】
墨田区区民活動推進部
文化振興課
北斎美術館開設担当
(墨田区役所1階)
☎03-5608-6115
【編集協力】
(公財)墨田区文化振興財団
北斎事業課

北斎さんは
どんな
人?



西洋の技法

北斎には知られざる意外な一面がありました。今回は
を取り入れた人として紹介します

西洋絵画から ヒントを得ていた

北斎は約七十年の画業のなかで、さまざまな技法に挑戦しています。絵師になつてすぐの春朗期には、すでに浮絵と呼ばれる技法で描いた作品を発表しています。浮絵とは、西洋の透視画法を取り入れた遠近法で、手前にあるものが浮き上がるように見える表現です。

図1の天明(一七八一〜一七八九年)期頃に発表した、「浮絵一ノ谷合戦坂落之図」は、源平合戦のひとつである、一ノ谷の合戦を題材としています。源義経が急な崖を馬で駆け下り、平家の陣に奇襲攻撃をかけた戦いを、浮絵を用いて描いています。手前に



図1 「浮絵一ノ谷合戦坂落之図」

大きく描かれているのは、平家の陣営です。奥に向かって城壁の線に移すと、海上の遙か先にまで広が

る平家の軍勢が見渡せ、圧倒的な数を誇る様子が見えがえ。浮絵を用いて、奥行きのある景色を表現しています。

北斎先生 遠近法を 図説!

図1では、城壁の

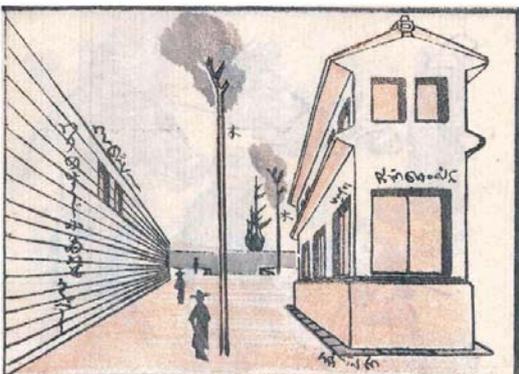
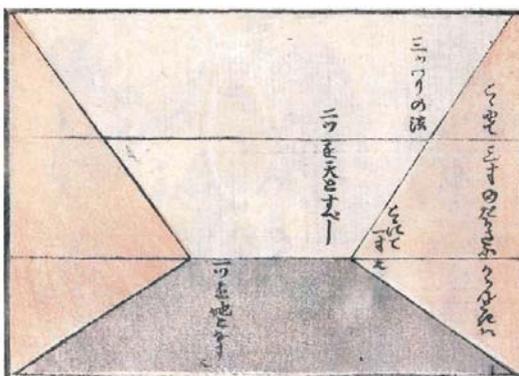


図2 『北斎漫画』三編

ラインや人物の大ききなど、まだまだ遠近法に不自然なところも見られます。のちの文化十二(二八五年)に発表した『北斎漫画』三編では、「三ツわりの法」(図2)と題して、遠近法を用いた構図の取り方を図説するまでになつていきます。『北斎漫画』は絵を学ぶ人たちのために作られた絵本です。上の図には「三ツわりの法 二ツを天とすべし 一ツを地となす也」と書かれています。三つに分けた上二段を空とし、一番下の段を地面として描いた風景には、西洋風の窓枠がある二階

建ての建物が描かれ、沖には帆船のような船がシルエットで描かれています。広らばのある帽子をかぶった人物もみられます。すつきりとわかりやすくまとめられた遠近法の図解は、絵を学ぶ人たちの役に立ったことでしょう。北斎は新しい技法に挑戦するだけでなく、それを広めることも行っていたのです。北斎が熱心に取り組んだ西洋絵画の技法や表現は、やがてすつきり北斎自身の表現となり、数々の作品に生かされています。

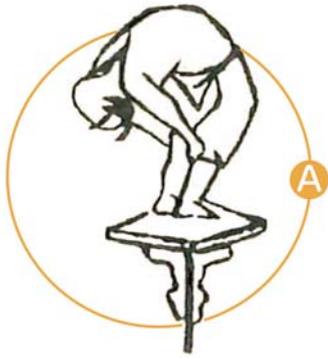


北斎には『画本早引』と

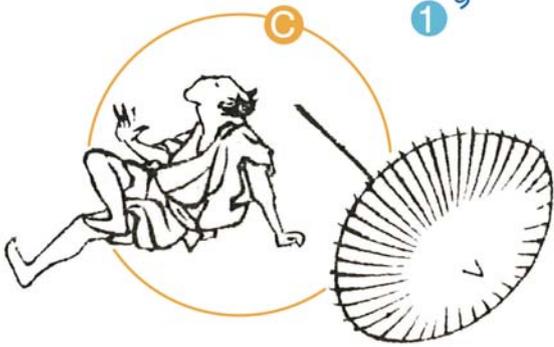
いう、絵の題名を「いろは四十八文字」順にならべ、簡単に描いた絵本があります。たとえば「いのページには「井戸」「囲碁」「医者」など、「い」ではじまる絵が描かれていきます。全部で一三〇〇図以上のさまざまな図があります。

絵のタイトルをあててみてね。今回は動作に係する絵を集めてみました。答えはページの下面にあるよ。

絵のタイトルを当てよう



- 1 すべる 2 あくび 3 そりかえる 4 もむ 5 ながる



現代の地図

飯島虚心の著した『葛飾北斎伝』には、火事は江戸の名物で、毎夜二、三回の火事があったと記され、江戸の人で火事に遭わない者はいないとまで言われていました。そんな状況の中で北斎は、五十六回転居をくり返し、七十五歳まで火事に巻き込まれたことがなかったために、鎮火のお守りを描いて人に与えていたというほど、稀な人でした。しかし、文化十(一八一三)年頃について火事に見舞われ

達磨横町で火事初体験！

てしまいました。場所は達磨横町とい、現在の東駒形一丁目辺りの、東西一〇〇m程の横町での出来事でした。家財道具を持ち出す時間があつたにもかかわらず、北斎は筆のみを握りしめ、娘のお栄ともども、後を見ずに逃げ出したと言われています。おそらく、初めての体験だったために、火事に慣れていなかったのでしょう。

すみだと北斎

「墨田区北斎基金」寄付キャンペーン～ふるさと納税～

平成26年7月から開始した「墨田区北斎基金」寄付キャンペーンの一環として、ふるさと納税を活用した寄付の募集を開始しました。

今回の募集では、区の魅力あふれる地域ブランド「すみだモダン」の認証商品・メニューを特典として用意しました。また、今年からは寄付金控除枠が拡大され、手続の簡素化により、ふるさと納税がさらに身近なものになりました。寄付金は、すみだ北斎美術館の建設や開館後の運営の充実などのために活用させていただきます。



「たばこと塩の博物館」が 墨田区横川でリニューアルオープン

三十五年間にわたり渋谷で開館して、「たばこと塩の博物館」が四月二十五日から、墨田区横川の地に、リニューアルオープンしました。

スペースが従来のおよそ二倍となり、常設展示室、特別展示室だけでなく、ワークショップルームや図書閲覧室、多目的スペースなど、新たな施設も充実しました。

新しくなった「たばこと塩の博物館」にどうぞご期待ください。



【博物館に関する問い合わせ】

△03-3622-8801



下記ホームページでは、すみだ北斎美術館のダイジェスト映像や、無料でダウンロードできるスクリーンセーバーなどをご用意しております。是非、ご覧ください。
<http://hokusai-museum.jp>

東京スカイツリータウン®「すみだ水族館」開業 三周年記念新ゾーン『江戸リウム』

「すみだ水族館」では開業三周年を記念して、四月二十五日（土）より新展示「江戸リウム」がオープンしました。

「江戸リウム」では、江戸時代より人々に親しまれている金魚などの水族や、墨田区にゆかりが深く「すみだ北斎美術館」の開業を控える、江戸時代の画師・葛



飾北斎の作品で空間をデザインしています。

老舗金魚問屋「金魚の吉田」の全面バックアップにより展示する、金魚の王様・ランチュウを円柱型の水槽で色々な角度からご覧いただけます。

【すみだ水族館に関する問い合わせ】
△03-5619-1821